

佳作

弁論大会で学んだこと

香川県 まんのう町立満濃中学校一年 平井 榊桔

「平井さん、がんばったやん。」

「弁論大会、感動したよ。」

「とってもよかったよ。」

ぼくは、中学校に入って初めての弁論大会で『ぼくのひみつ』という作文を読みました。この作文は、独り言が多いぼくが本当は友達と仲良くしたいと思っ
ている気持ちを、みんなに知ってもらいたくて書きました。

ぼくはいつも自分の世界に行っちゃダメ、周りを見ていないので、周りの人達が困っていることに気づかず、何の役にも立たないなと感じていました。また、勉強もあまりできないし、冗談が通じなくてすぐ怒ってしまうし、ぼくってダメだなあ、と思うことがよくあります。

でも今回この作文を書いて初めてクラスの代表に

選ばれました。今まで何かの代表に選ばれたことがなかったのに、「まさか」とおどろきました。でもうれしかったです。みんなにぼくの事を知ってもらえるチャンスだし、みんなの代表だからと、読む練習もたくさんがんばりました。学年弁論大会ではきん張りましたが、ゆっくり読むことに気をつけながらがんばり、学年の代表にも選ばれました。

ぼう頭の言葉は校内弁論大会が終わった後みんなにかけられた言葉です。担任の先生はもちろん、他の学年の先生にも声をかけていただきました。また、他のクラスの話したことのない子や、部活の先輩や知らない先輩にも声をかけてもらいました。ぼくは、こんな短い間にたくさんの人にほめてもらえてとてもうれしかったです。額入りの大きな賞状ももらい、家族のみんなも喜んでくれました。

小学校のころ、友達に「うざい」や「死ね」と言われて辛かった。ぼくの気持ちが晴れたようでした。何の役にも立たないと思っていた。ぼくが代表に選ばれ、みんなにぼくの気持ちを知らせてもらえたこと、そしてなによりたくさんの人達に声をかけてもらえたことが、本当にうれしかったです。

ぼくは、弁論大会を通してがんばればほめてもら

えること、それからきちんと気持ちを伝えれば分かってくれる人や評価してくれる人がいる事を学びました。また、特別な一言じゃなくても、声をかけてくれるただそれだけでうれしいことも知りました。

ぼくはまだまだ独り言も多く、自分の世界に行ってしまうことも多いです。だれかが困っているても気付けなかったり、先を読んで手助けできる事も少ないかもしれません。でも今回の経験を活かしてだれかに意見を伝えたり、相手の人がすごくがんばっていたり、よかったです。はがしはがしはがしに何か一言声をかけたりしようと思います。みんながかけたくれた言葉がぼくに自信をくれたように、ぼくも誰かの自信につながるような優しい言葉をかけていきたいです。